

### 3 病原体検査状況

## (1) 病原体検査の概要

検査対象となった疾病及び検査定点数は昨年と同様である。

### ア 疾患別、月別検査受入状況 (P31 表 12 参照)

受入検体件数 424 件 (全数把握対象感染症 121 件、病原体定点対象感染症 303 件) で、多い順に感染性胃腸炎 83 件、インフルエンザ 82 件、腸管出血性大腸菌感染症 70 件、流行性角結膜炎 25 件、無菌性髄膜炎 24 件等である。全数把握対象感染症については、6 月から 11 月を中心にかけて腸管出血性大腸菌感染症の検体が多く、5 月と 8 月から 12 月にかけて日本紅斑熱検体の搬入が続いた。定点把握感染症については、年間を通じて感染性胃腸炎の検体が多く、冬季から春期を中心にインフルエンザの検体が搬入された。

### イ 疾患別の病原体分離・検出状況 (参照 ; P34 表 13-a、P35 表 13-b)

19 疾患を中心に 19 種類 46 型 (血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む) のウイルス・リケッチア・細菌が分離・検出された。主な疾患から分離・検出されたものは、以下のとおりである。

- (ア) 結核 ; 結核菌株 1 株について、型別試験を行った。
- (イ) 細菌性赤痢 ; フレキシネル赤痢菌 (*Shigella flexneri*) が 2 件分離同定された。
- (ウ) 腸管出血性大腸菌感染症 ; O157 が 6 件、O111 が 4 件、O103 が 2 件、O26 と O146 が各 1 件分離同定された。
- (エ) 日本紅斑熱 ; 日本紅斑熱リケッチアが 6 件検出された。陽性判定は、5 件が遺伝子検査、1 件が抗体検査によった。
- (オ) レジオネラ症 ; レジオネラ菌 (*Legionella pneumophila* (血清群 1)) が 1 件分離同定された。
- (カ) 急性脳炎 ; ヘルペスウイルス 7 が 1 件検出された。
- (キ) 侵襲性肺炎球菌感染症 ; 肺炎球菌 4 株について、血清型の試験を行った。
- (ク) 咽頭結膜熱 ; アデノウイルス 7 件が分離・検出された。そのうち、1 型が 4 件、2 型が 2 件、5 型が 1 件であった。
- (ケ) A 群溶血性レンサ球菌感染症 ; A 群溶血性レンサ球菌が 8 件分離された。血清型は T4 型 2 件、T1 型と T12 型が各 1 件で、残り 4 件は型別不能であった。
- (コ) 感染性胃腸炎 (P32 図 4 参照) ; ノロウイルス、サポウイルス、A 群ロタウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス 40/41 型が検出された。ノロウイルス GII 型が 28 件と最も多く、次いでサポウイルス 5 件、アデノウイルス 40/41 型 4 件等の順であった。
- (サ) 感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る) ; A 群ロタウイルスが 5 件検出された。
- (シ) 手足口病 (P32 図 5 参照) ; コクサッキーウイルス (CV) A6 型 (CVA6) が 5 件、エンテロウイルス 71 型が 2 件、CVA5、CVA10、ライノウイルスが各 1 件分離・検出された。

- (ス) 百日咳；百日咳菌が1件検出された。
- (セ) ヘルパンギーナ (P33 図6 参照)；CVA6 が3件、CVA10、エコーウイルス5型、ライノウイルスが各1件分離・検出された。
- (ソ) 流行性耳下腺炎；ムンプスウイルスが5件検出された。
- (タ) インフルエンザ (インフルエンザ様疾患も含む)；インフルエンザが68件検出された。前者の型については、AH3型が49件と最も多く、A2009型が10件、B型山形系統が5件、B型ビクトリア系統が4件の順であった。
- (チ) 流行性角結膜炎；アデノウイルス17件が分離・検出された。そのうち、54型が4件、3型と64型が各3件、8型が2件等であった。
- (ツ) 無菌性髄膜炎；ムンプスウイルスが4件、エンテロウイルスが2件、アデノウイルス4型が1件分離検出された。そのうち、エンテロウイルスについては、エコーウイルス6型、ライノウイルスが各1件であった。
- (テ) RSウイルス感染症；RSウイルスが8件検出され、すべてA亜型であった。

表12 月別検体受入状況(平成29年1月～平成29年12月)

臨床診断名(疑いも含む)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
全数把握対象感染症	結核								1				1	
	赤痢	2				11	5						18	
	パラチフス				1								1	
	腸管出血性大腸菌感染症				8		26	16	5			15	70	
	日本紅斑熱					3			2	4	2	1	13	
	つつが虫病									1			1	
	SFTS					1			1	2			1	5
	ダニ媒介性脳炎									1				1
	ライム病									1				1
	レジオネラ症					1								1
	急性脳炎				1									1
	麻しん				3			1		2				6
	風しん				1					1				2
小計	2	0	5	9	16	31	17	8	13	2	16	2	121	
病原体定点対象感染症	咽頭結膜熱	2	1	1	1			1		2		1	9	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2		3	1	4	2	1	2	1	2	2	20
	感染性胃腸炎	5	7	7	7	6	5	5	3	7	7	13	11	83
	ロタウイルス感染性胃腸炎				3			1	1					5
	手足口病	2					1	6	3			2	1	15
	百日咳						1							1
	ヘルパンギーナ	1				1		2	3	1	2	1		11
	流行性耳下腺炎	1		2	2	1	2							8
	インフルエンザ	17	15	16	10	5			3	5	1		10	82
	急性出血性結膜炎	2		1	1									4
	流行性角結膜炎		1	2		2	2	1	3	3	5	3	3	25
	細菌性髄膜炎							1						1
	無菌性髄膜炎		1	3	1	1	3	3	1	4		2	5	24
	伝染性紅斑													0
	RSウイルス感染症						1		1	3	3	1	1	10
	マイコプラズマ肺炎													0
水痘													0	
突発性発疹	1				1		1	1	1				5	
小計	31	27	32	28	18	19	23	20	28	19	25	33	303	
計	33	27	37	37	34	50	40	28	41	21	41	35	424	

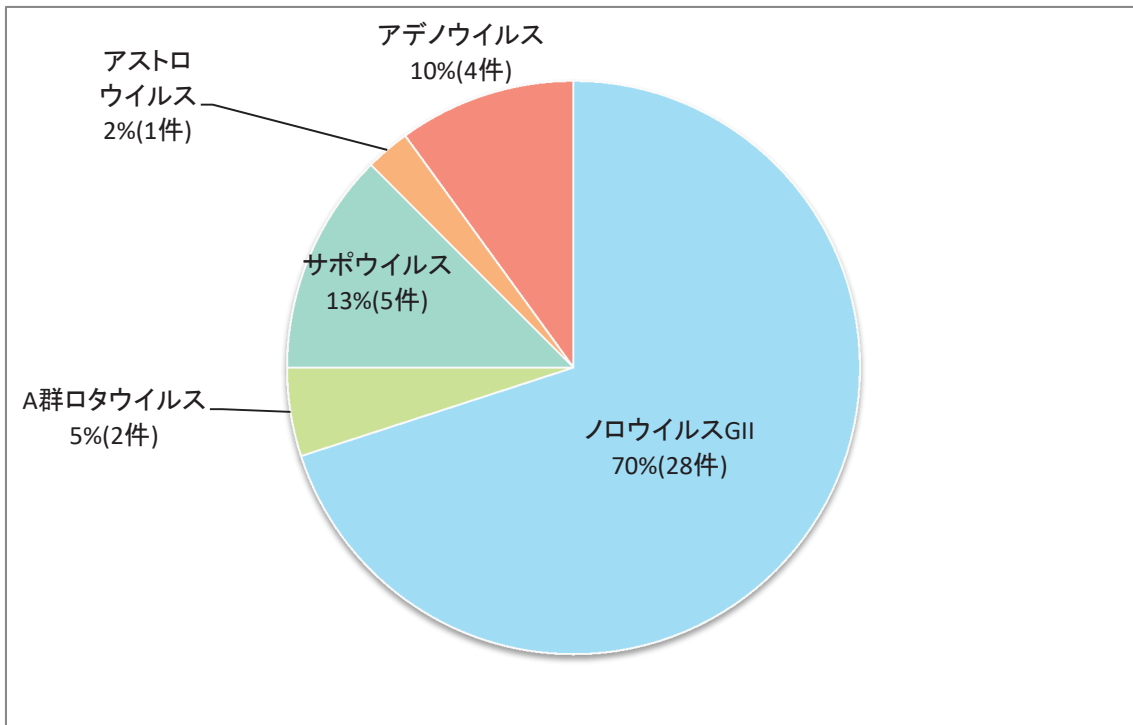


図4 感染性胃腸炎診断の便検体から検出されたウイルスの割合  
ノロウイルス、サポウイルス、及びアデノウイルスで93%を占めた。

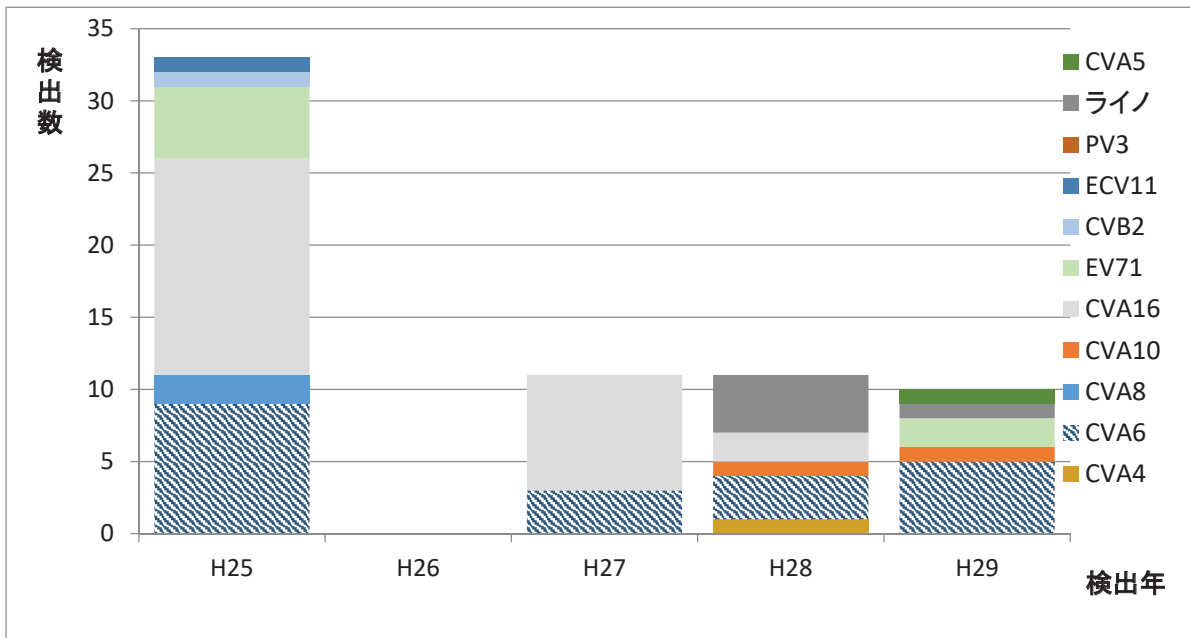


図5 年別手足口病と診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス  
平成29年はCVA6が多く検出された。  
※CV：コクサッキーウイルス

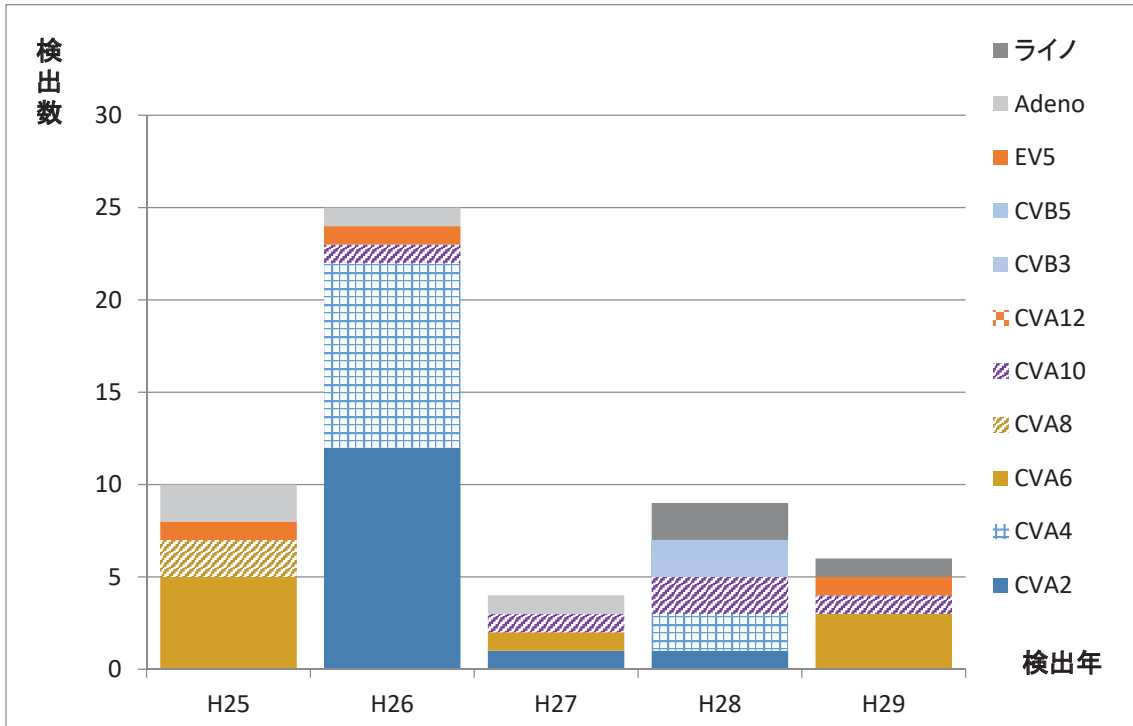


図 6 年別ヘルパンギーナと診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス

平成 29 年は CVA6 が多く検出された。

※CV：コクサッキーウイルス

表13-a 全数把握感染症 疾病別 病原体分離・検出状況(平成29年1月～12月)

		病原体の種類																計			
		結核菌	赤痢菌	パラチフス菌	腸管出血性大腸菌O26	腸管出血性大腸菌O103	腸管出血性大腸菌O111	腸管出血性大腸菌O146	腸管出血性大腸菌O157	日本紅斑熱リケッチア	つつが虫リケッチア	SFTSウイルス	ライム病ボレリア	レジオネラ属菌	ライム病ボレリア	ヘルペスウイルス7	肺炎球菌		麻しんウイルス	風しんウイルス	
全数把握	2類	結核	1																	1	
	3類	細菌性赤痢		2																	2
		パラチフス																			0
	4類	腸管出血性大腸菌感染症				1	2	4	1	6											14
		日本紅斑熱									6										6
		つつが虫病																			0
		SFTS																			0
		ダニ媒介性脳炎																			0
		ライム病																			0
		レジオネラ症													1						1
	5類	急性脳炎															1				1
		侵襲性肺炎球菌感染症																4			4
		麻しん																			0
		風しん																			0
	計		1	2	0	1	2	4	1	6	6	0	0	0	1	0	1	4	0	0	29

